

子供の水難事故

半数以上が夏に集中

六月になると、全国各地の学校や行楽地ではプール開きを迎え、本格的な水のシーズンが始まります。夏休みを控えた子供たちにとっては、うれしい季節の到来ですが、ここで気をつけたいのが水難事故。毎年六月から八月の三か月間に、子供の水をめぐる事故が多発しているからです。

中学生以下の死者・行方不明者は三百九十六人。そのうち、六月から八月の三か月間に全体の五十三%にあたる二百人が尊い命を落としています。死亡などにつながる事故の発生場所は、河川が第一位、次いで海、用水堀、湖沼池と続きます。

では、この時期、子供を水の事故から守るためにはどうしたらよいでしょうか……六月の「水難防止活動強化月間」を機会に改めて考えてみましょう。

一方、事故につながる行動パターンは、第一位が水泳中、次いで水遊びとなっています。ここで見落とせないのは死亡事故の三件のうち二件が、子供たちだけで出かけているときに起こっているということです。

死亡事故の三分の二は

大人が不在

昨年一年間の水の事故による



ですから水難事故を減らすには、まず第一に必ず保護者が信頼できる大人が同伴することが大事です。第二に、子供だけで遊泳や水遊びをしていたら、大人がひとこと注意してあげましょう。

自宅付近の危険な

場所を再点検

昨年同期（六月～八月）の子供の水難事故のうち、約八十三%がふたや柵、立て札などのない場所で発生しています。水のシーズンを前に、いまま一度自宅付近の河川や用水路、溜池などを再点検しましょう。もし危険な場所があれば、管理者に申し入れて、安全措置を講じてもらうようにしていきたいものです。



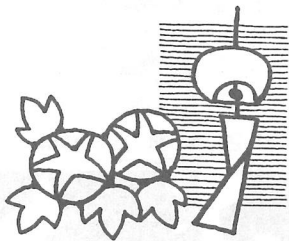
夏至の日の行事をご存じですか？ソラマメのご飯を田の神にあげるとか、夏至に田植えをするのを忌むなどの風習が一部にはあるようです。

夏至はご存じのように、6月22日ごろで、北半球では太陽の位置が最も高くなり、昼が最も長い日です。太陽が高ければ、この時が最も暑いように思いますが、この時期の日本は梅雨寒むで、天気が悪いため、日照時間の平均も冬至より短くらいです。それで、夏を迎えたという実感がなく、行動なども少ないのかもしれない。

夏至

一方ヨーロッパ、とくに北欧では、夏至には、火祭りなどの派手な行事が各地で行われます。占いや言い伝えもいろいろ残っています。丘の上などで火をたき、恋人同志が手をつないで、その火を飛び越えると恋が成就するとか、娘がこの夜にまくらの下に花を置いて寝ると、いい夢を見るときか、夏至の朝露はそばかす取りの効果があるとかいうものです。

北欧では、夏至は白夜の季節で、こうしたロマンチックな行事にふさわしい風景が見られます。



ところで、6月7日は「計量記念日」です。昭和27年6月7日に計量法が公布されたのを記念して設けられたもので、計量思想の徹底などが狙いです。この日は功労者の大臣表彰のほか、各地で、カボチャの重量当てなどの楽しい行事があります。